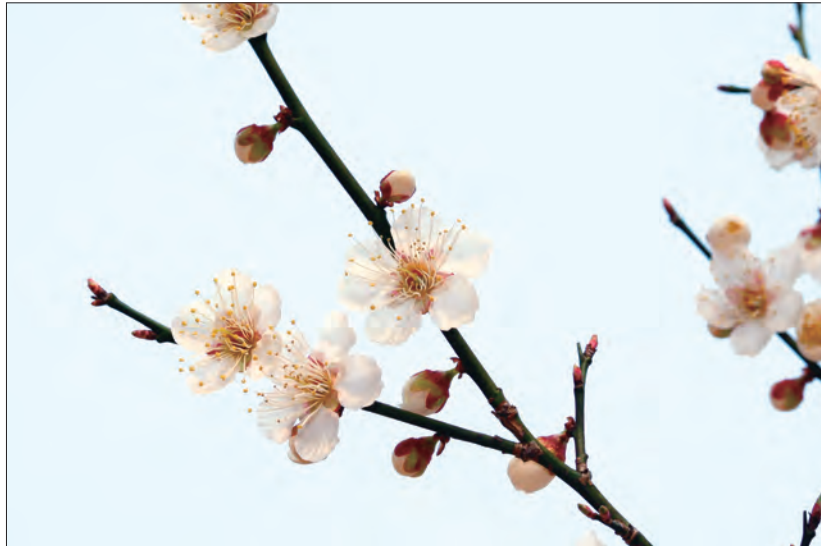


青梅市総合長期計画

基本構想

平成25年度～平成34年度
2013-2022



この基本構想および基本計画は、青梅市議会の議決すべき事件等に関する条例第2条の規定にもとづき、平成24(2012)年11月29日、市議会の議決を経たものです。

1 計画の目的

本市では、昭和46(1971)年以来、5次にわたって総合長期計画を策定し、住民福祉の向上のため、あらゆる分野で多岐にわたる施策を推進してきました。

地方分権改革※の進展により国から地方へと権限の移譲が進んでいく一方で、連鎖化する世界経済不況への不安、転換期にある日本の人口問題や長引く経済の低迷等の影響による社会保障制度の改変、東日本大震災やこれに起因する原子力発電所事故からの復旧・復興に向けての対応、ひっ迫するエネルギー問題など、自治体のみならず日本全体を取り巻く環境は決して平たんなものではありません。

こうした社会情勢、経済動向そして地域の実情を十分に踏まえ、この厳しい時代を市全体が一丸となって乗り越え、暮らしやすさの更なる向上とまちの発展を目指す新たな指針として第6次青梅市総合長期計画を策定します。

2 計画の役割

本計画は、本市にとってあらゆる行政活動の基本となる最上位計画であり、市政運営を自律的かつ継続的に経営的観点を持って推進するための総合指針となるものです。

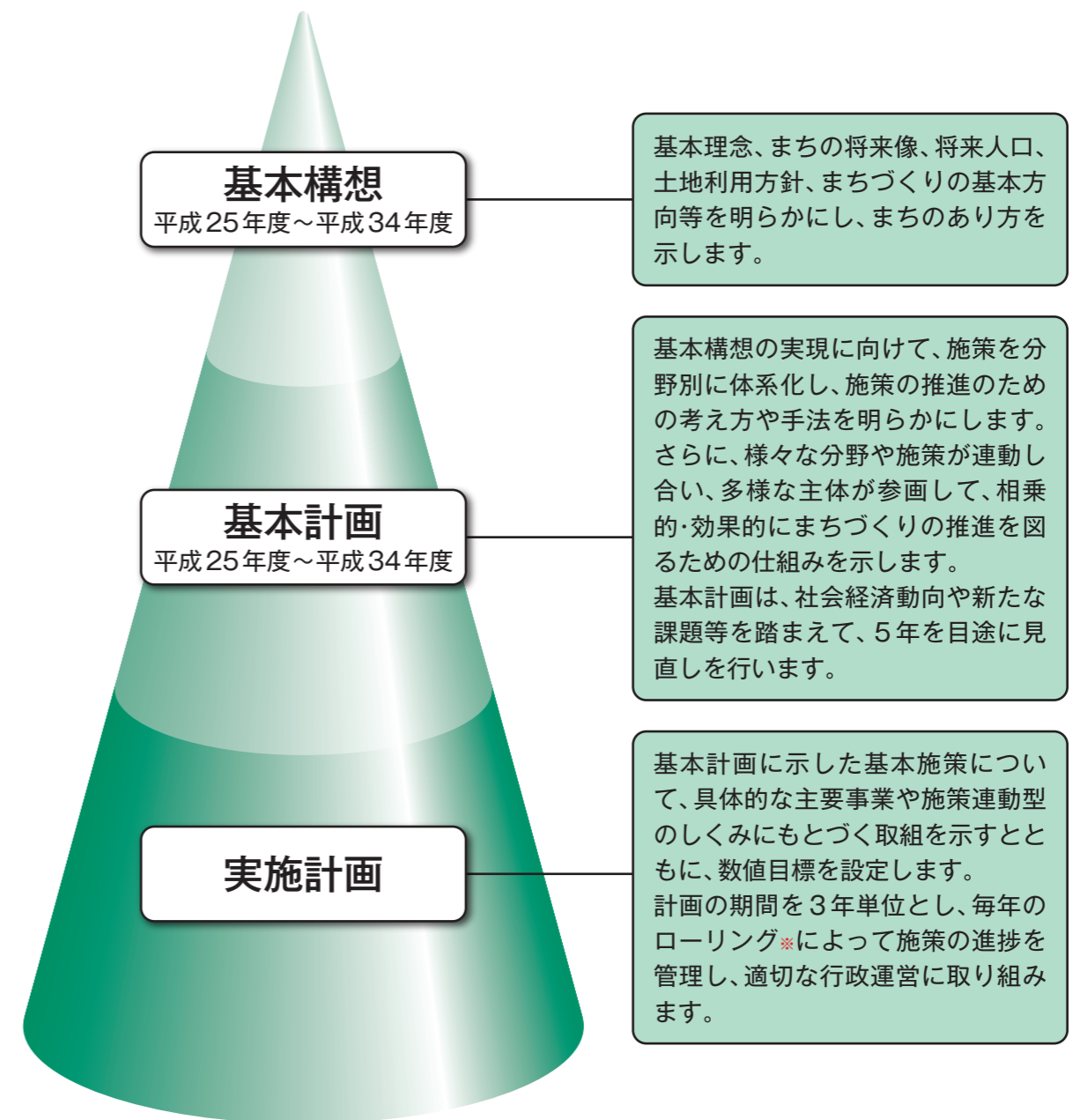
市民にとっては、市政やまちづくりに参画・協働するための共通した目標となるものです。

国や東京都に対しては、必要な施策や事業を行うため、市としての主張を明らかにするものであるとともに、近隣市町村等との間で相互に協力や調整、連携を図るための指針となるものです。

※地方分権改革：国や市などの地方自治体それぞれが分担すべき役割を明確にして、市などの判断と責任で地域の実情に即した行政運営を進めていくことを促進することで、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を図ろうとするもの。

3 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」、「基本計画」および「実施計画」の3層で構成されます。それぞれの役割と計画期間は、次のとおりです。



※ローリング：社会・経済状況の変化や、新たなまちづくりの課題などを踏まえ、当初策定した計画を定期的に見直し、実情に即して修正していく方法のこと。

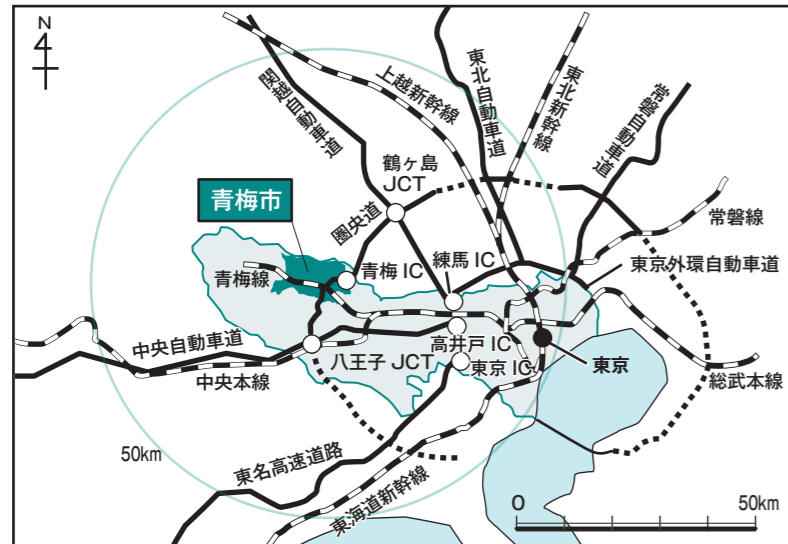
4 青梅市のあらましとまちづくりの歩み

本市は、東京都の西北部、都心から西へ40～60km圏に位置し、秩父多摩甲斐国立公園の玄関口にある豊かな自然環境に恵まれた都市です。

本市の総面積は103.26km²(東西17.2km・南北9km)で、その6割以上を占める豊富な森林と東西を貫く多摩川は、市民に憩いと潤いを与えるとともに首都圏における観光・レクリエーションの場としてにぎわっています。

道路は、都心や多摩地域から山梨県に至る東西基幹道路として青梅街道や吉野街道があり、これに南北幹線道路が交差しています。さらに、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)が通り、青梅インターチェンジが開設されています。

昭和26(1951)年に青梅町、調布村、霞村が合併して「青梅市」が誕生し、昭和30(1955)年には隣接する吉野・三田・小曾木・成木の4か村が編入されました。



青梅市位置図

伝統的な基幹産業であった織物業や林業は構造不況によって衰退し、代わって、戦後の急速な復興と高度経済成長の流れを受け、東京郊外の定住や産業の受け皿として急速に都市化が進みました。

都市化とともに、昭和40年代に羽村市にまたがる50万坪に及ぶ広大な西東京工業団地が造成されました。また、昭和54(1979)年に三ツ原工業団地が完成し、市内各地に散在していた既存の工場の集団化を進め、産業拠点の形成に取り組んできました。

また、昭和40(1965)年には、ドイツのポッパルト市と姉妹都市となりました。昭和42(1967)年からは、市民マラソンの草分けであり、本市を代表するイベントである青梅マラソンが開催されています。

近年では、三次救急まで対応する市立総合病院をはじめ、河辺駅北口整備で誕生した中央図書館、地域に根ざした市民センター、さらには行政運営・災害対策の拠点である市庁舎といった市民生活を支える拠点施設の整備を進めました。

昭和26(1951)年に青梅町、調布村、霞村が合併して「青梅市」が誕生し、昭和30(1955)年には隣接する吉野・三田・小曾木・成木の4か村が編入されました。

伝統的な基幹産業であった織物業や林業は構造不況によって衰退し、代わって、戦後の急速な復興と高度経済成長の流れを受け、東京郊外の定住や産業の受け皿として急速に都市化が進みました。

都市化とともに、昭和40

5 本市の特性

① 自然・生活・環境・防災においては

本市は、都心近郊にありながら、多摩川の清流や緑豊かな森林など恵まれた自然環境にあり、子どもから高齢者まで多くの市民に愛されています。この自然環境は、観光資源、情操教育、健康づくりの場などとして高い潜在能力を秘めています。さらに、市域の地盤が全体的に固いとされています。

しかし、市域が広い割には平坦な土地が少なく、その多くを丘陵地や山地が占めるという地形の特性により、基盤整備の高コスト化や高齢者等の日常生活に不便さを与えているのが実情です。また、立川断層帯があることや、土砂災害警戒区域※および特別警戒区域※に指定されるなど危険な箇所もあります。その他恵まれた自然を生かしきれていないというところがあります。

② 教育・文化・芸術・スポーツにおいては

本市は、豊かな自然に恵まれ、歴史的な文化財や伝統文化が受け継がれています。さらに、美術館や市民会館、中央図書館、総合体育館のほか、各地区に図書館や体育館を併設する市民センターがあり、市民が文化やスポーツを楽しむことができる環境が身近にあります。また、青梅マラソンは、市民マラソンの草分けとして全国に知られています。

一方、広い市域に多数存在する教育・文化施設の老朽化が進んでいます。

③ 健康・医療・福祉・社会保障においては

本市には、西多摩保健医療圏※で唯一の救命救急センターを併設した市立総合病院があります。また、高齢者のための施設が多いなど高齢者を大切にすまちというイメージが定着しています。

しかし、老人福祉施設・病院が多く存在することに伴って、公的負担が増大している実態があります。さらに、長引く不況の影響や高齢化の影響により社会保障制度にもとづいて支出する扶助費等が大きく伸びています。

※土砂災害警戒区域：急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域のこと。土砂災害防止法にもとづき、都道府県が基礎調査を実施したうえで指定し、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

※土砂災害特別警戒区域：土砂災害警戒区域のうち、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域のこと。特定の開発行為(宅地分譲や社会福祉施設の建設など)に対する許可制、建築物の構造規制などが行われます。

※西多摩保健医療圏：青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町で構成される二次保健医療圏のこと。二次保健医療圏では、入院医療の確保、医療と保健の連携等により包括的な保健医療サービスを提供します。

④ 都市基盤・産業・観光・雇用においては

本市は、中央部を鉄道が走り、都心へのアクセスが良いこと、高速交通網につながる圏央道青梅インターチェンジがあること、道路・公園・下水道など都市基盤整備が進んでいることなど利便性が高い環境にあります。

また、大規模な工場の集積や高い技術力を持つ工業や充実した商業活力、さらには、御岳山、御岳溪谷、梅の公園、岩蔵温泉等の観光地が多数あり、加えて、青梅マラソンや青梅大祭等、集客能力の高いイベントも多数あります。

一方で、鉄道・バス等の公共交通機関に対する市民満足度は十分でなく、高齢化の進展に伴う交通弱者への対応も不足しています。また、商業や農業における担い手の高齢化や後継者不足による衰退、企業の撤退、雇用の場の不足、イベント集客力の低下、観光客の減少などの問題が生じています。

⑤ 市民参画・協働・行政運営においては

本市には、地域を支える力（自治会、消防団、高齢者クラブ、子ども会、PTA等）で地域コミュニティが醸成されており、人情味あふれる温かい人と人とのつながりがあります。また、産学官の連携や協働といった多様な主体が参画したまちづくりが進められています。

しかし、自治会加入率の低下に象徴されるように、コミュニティ機能の維持が難しくなっています。また、本市は、多摩地区の他の市町村と比較して市の歳入額に占める市税収入割合が低い状況にあります。さらに、公共施設の老朽化に対する効果的・効率的な対応など取り組むべき行政課題は増しています。



青梅市納涼花火大会

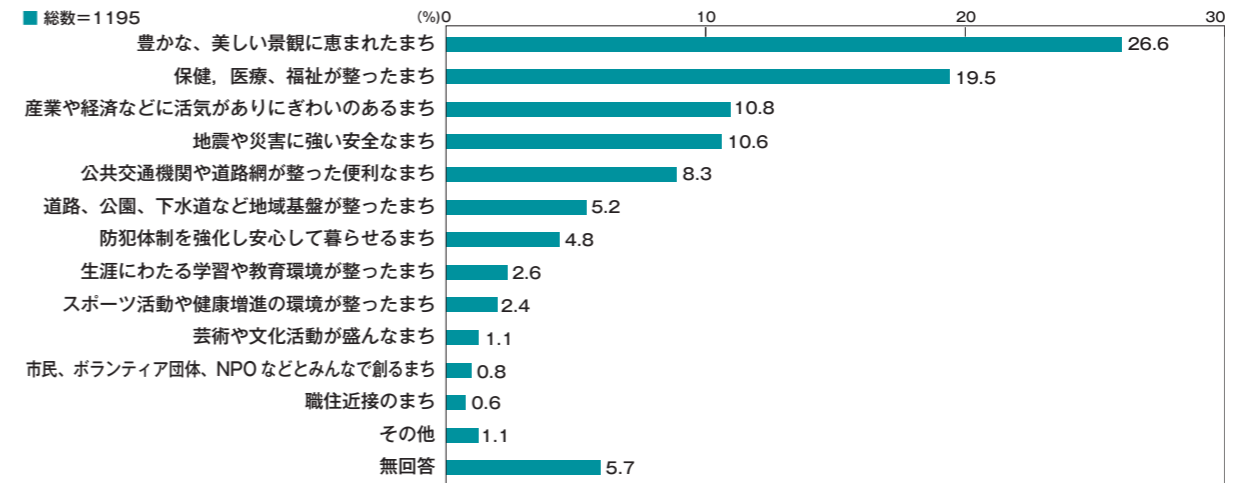
6 市民の期待

市民ニーズの把握のため、市政総合世論調査や子ども世論調査を実施しました。まちづくりに関わる主な結果については、次のとおりです。

① 第28回市政総合世論調査（平成23（2011）年5月実施）

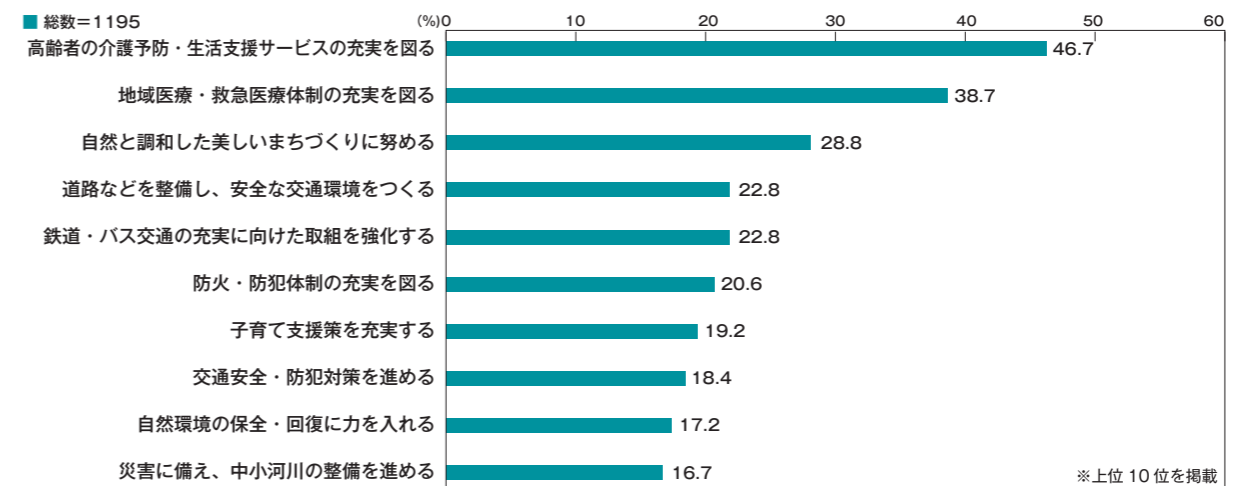
● 「10年後の青梅市の将来像」について

「最も近いイメージ」として選ばれた項目は、「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」が最も多く、次いで「保健、医療、福祉が整ったまち」となっています。



● 「重点的に取り組むべき施策」について（複数回答）

今後、重点的に取り組むべき施策を34項目から選んでもらったところ、「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」が最も多く、次いで「地域医療・救急医療体制の充実を図る」が続きます。



●「理想的な生活」について

今後、「増やしたい(始めたい)」と回答した率が高かった項目は、「のんびり時間を過ごす生活」、「自然の中で散歩したり遊ぶ生活」、「お金をかけない遊びを楽しむ生活」などとなっています。

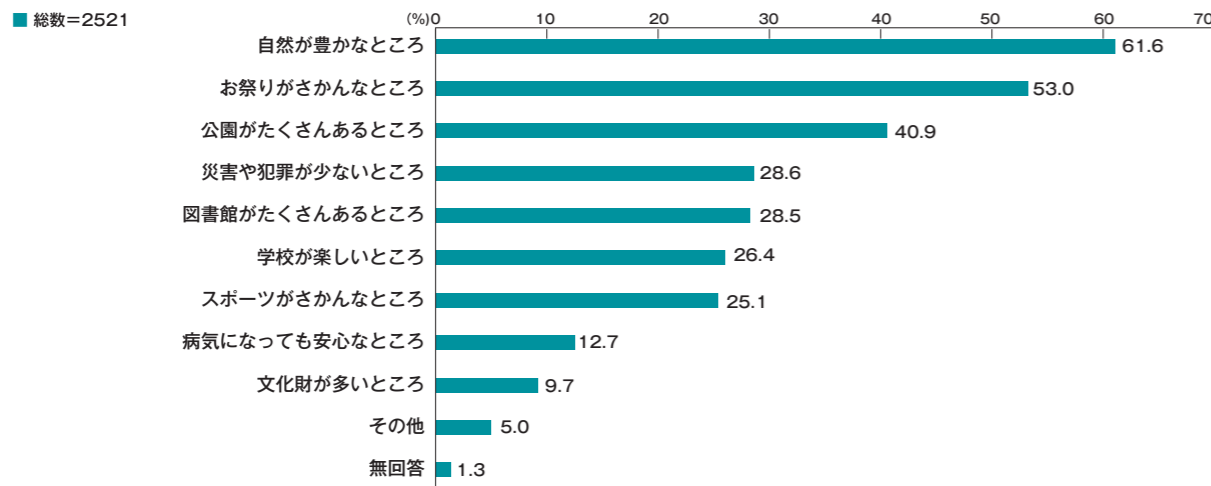
●「定住意向」について

今後の定住意向について尋ねたところ、73.3%の方が「今後も住み続けたい」と回答しました。

② 子ども世論調査(平成23(2011)年7~9月実施)

●「青梅市の好きなおところ」について(複数回答)

「自然が豊かなところ」が最も多く、次いで「お祭りがさかんなおところ」、「公園がたくさんあるところ」の順となっています。

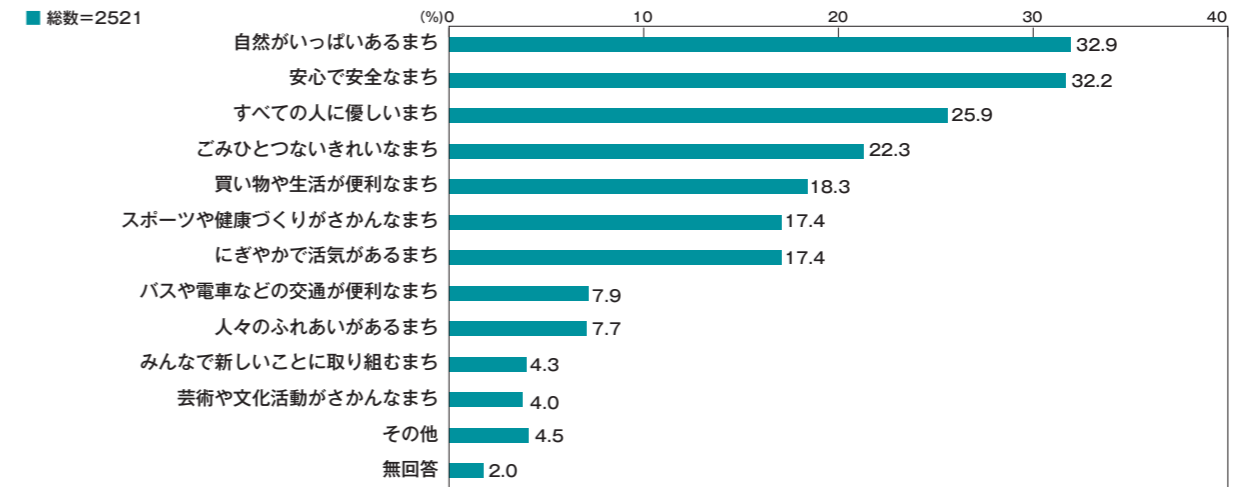


●「青梅市の自慢」について(複数回答)

「青梅マラソン」が最も多く、次いで「青梅の自然」、「多摩川」、「青梅大祭などのお祭り」、「御岳山」が上位に挙げられました。

●「10年後のあるべき姿」について(複数回答)

「自然がいっぱいあるまち」と「安心して安全なまち」が僅差で上位を占め、次いで「すべての人に優しいまち」、「ごみひとつないきれいなまち」が続きます。



御岳山ロックガーデン